国立大学附属幼稚園からの提案 17

質の高い幼児期の教育

目次

発刊にあたって／４つのサブテーマについて …… 1

コラム
幼児教育の質向上を牽引する附属幼稚園 …… 2

幼児教育におけるICTの活用
園と家庭との繋がりを視点としたICTの活用
埼玉大学教育学部附属幼稚園 …… 3
幼児の生活と情報活動
～幼児の遊びを豊かにするICT活用の試み～
京都教育大学附属幼稚園 …… 4

言語活動の充実
イメージの世界を楽しむことから生まれる言語活動
金沢大学人間社会学域学校教育学類附属幼稚園 … 5
言語活動の充実に向けた取組
～コミュニケーションスキル活動を通して～
宮崎大学教育学部附属幼稚園 …… 6

探究心の育成
どのような環境やかかわりが探究する姿を引き出すのかを探る
三重大学教育学部附属幼稚園 …… 7
「やってみたい」のその先へ
熊本大学教育学部附属幼稚園 …… 8

幼児教育における多様性
幼児にとっての多様性をどう見るか（４歳児の事例を通して）
滋賀大学教育学部附属幼稚園 …… 9
多様性を生かした保育を考える
広島大学附属幼稚園 …… 10

令和５年度　全国国立大学附属幼稚園研究テーマ一覧 … 11

令和５年３月
全国国立大学附属学校連盟幼稚園部会

発刊にあたって

幼稚園、保育所、こども園などの様々な環境で実践される幼児教育には、必然的に大きな多様性が見られます。そして、グローバル化などを背景として幼児の多様性も増している中、全国の国立大学附属幼稚園においても、教育研究への取り組みは多様です。言うまでもないことですが、幼児教育の答えはひとつではありません。

ここに「国立大学附属幼稚園からの提案 17」として、研究成果をまとめたリーフレットをお届けします。昨年に引き続き、質の高い幼児期の教育を研究主題として、４つのサブテーマ「幼児教育における ICT の活用」、「言語活動の充実」、「探究心の育成」、「幼児教育における多様性」について、これまでの研究成果を発表しています。お忙しい中、発刊に向けてご尽力いただいた先生方に心よりお礼申し上げます。ページを捲るごとに様々な教育研究の成果が飛び込んできます。是非、子どもたちの姿を想像しながら、ご一読ください。共感していただける内容がきっとあると思います。ここに紹介された成果が、子どもたちの豊かな未来に向けた、皆様の教育実践の一助となれば幸いです。

全国国立大学附属学校連盟幼稚園部会
（千葉大学教育学部附属幼稚園園長）
部会長　**大和　政秀**

4つのサブテーマについて

幼児教育におけるICTの活用

幼児教育ではどのようなICTの活用があるのか、その活用によって幼児はどのような学びをすることができるのかについて、考えを深めています。

p.3～p.4 へどうぞ

言語活動の充実

豊かな言語環境とはどのようなものか、言語活動の充実を幼稚園生活全体の中でどのように考えていったらよいかについて、考えを深めています。

p.5～p.6 へどうぞ

探究心の育成

幼児の探究する姿と、幼児の探究する機会を保障する教師の援助のあり方について、考えを深めています。

p.7～p.8 へどうぞ

幼児教育における多様性

持続可能な社会の創り手となるために、「SDGs」の視点から、どのような保育が求められるのかについて、考えを深めています。

p.9～p.10 へどうぞ

コラム

幼児教育の質向上を牽引する附属幼稚園

鳴門教育大学大学院教授　**佐々木　晃**

幼児教育が無償化されて４年が経過しました。新型コロナウイルス感染症が収束に向かうと、必ず無償化の成果が求められることでしょう。現在、待機児童数も全国的に減少に転じ、いよいよ「幼児教育の質」についての議論が活発になってきた様子です。私は文部科学省の「幼児教育の実践の質向上に関する検討会」の委員を拝命していることからも、今こそ附属幼稚園が蓄積してきた実践の英知が全国の実践者に広まっていくことを期待しています。

ご存じの通り、幼児教育の質を規定する重要な要素の一つにプロセスの質があります。これは、幼児理解をはじめとした幼児と保育者の相互作用や指導、保育環境や保育者による環境の構成等の過程や方法を意味します。このリーフレット第 17 号では、子どもの資質・能力の育成にかかわる４つの視点から、幼児教育の質向上へのアプローチがなされ、附属幼稚園の先進的な実践のモデルが提示されています。

「幼児教育における ICT の活用」に関する研究では、埼玉大学教育学部附属幼稚園は ICT 活用を視点に園と家庭との繋がりを調査し、実際の取り組み例を示しています。幼児の直接的な体験との関連を念頭に置いて、情報機器を使用する目的や必要性を自覚しながら、活用を進めるヒントがちりばめられています。さらに、京都教育大学附属幼稚園は幼児の遊び分析から、「事実をみる」ことから「未知なるものをみる」に至る遊びの深化をとらえ、直接体験を ICT 活用によってさらなる豊かさへと促す試みを提案してくれています。

「言語活動の充実」に関する研究では、金沢大学人間社会学域学校教育学類附属幼稚園が幼児の「伝えたい」という思いを引き出し、イメージの世界を楽しむための取り組みの具体例をあげて、言語活動の広がりや深まりを捉える方略を提案してくれています。また、宮崎大学教育学部附属幼稚園は、家庭と連携を図りながら展開するコミュニケーションスキル活動の実際とその成果の一端を紹介するとともに、幼児の思考力や伝達力を育成するための年間指導計画を提示してくれています。

「探究心の育成」に関する研究では、三重大学教育学部附属幼稚園が、幼児が主体的に対象と関わり、対象との関わりが深まっていく様相を考察し、どのような環境や保育者の関わりが探究する姿を引き出すのかを論説してくれています。熊本大学教育学部附属幼稚園は遊び場面の学びの読み取りと学びを支える環境の構成の視点から、幼児の「やってみたい」の先に広がる探究の世界を支える指導方法について明らかにしてくれています。

「多様性」に関する研究では、滋賀大学教育学部附属幼稚園 が、SDGs の視点からの保育の問い直しをもとに、多様性と共生に満ちた保育の展開と「違いに触れる・知ることにつながる・受け止め合う」の経験が幼児にとっての多様性につながることを言明しています。広島大学附属幼稚園は、豊かな自然や友達とかかわりながらその子らしさを発揮し、ともに育ち合う生活の中で幼児の多様性の理解を促し、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働するための環境の構成や指導方法を提案してくれています。

国立大学附属という立場で、現場の教育課題と高度な専門研究、理論と実践とをつなぎ、「実践の知」に高め現場の実践者達と連携していくことが我々の使命です。各地域で育まれた個性あふれる附属幼稚園 49 園は総力を結集して、幼児教育新時代に提案いたします。

園と家庭との繋がりを視点としたICTの活用

幼稚園教育要領解説では、幼児の生活は、家庭、地域社会、幼稚園と連続的に営まれていることなど、生活全体を視野に入れて、園での指導をする必要があることが示されており、ICTの活用に関しても保護者の理解が欠かせない。園と家庭との繋がりを視点としたICTの活用について、ICTに関わる保護者対象のアンケート結果と、実際の本園での取組から考える。

ICT利用に関する保護者へのアンケート結果（幼児期の ICT についての自由記述より）

メディアリテラシーが必要では？

積極的に使わせたい

関わり方に迷う…

幼児期には触れさせたくない

- 使用による目の健康、視力への影響があるのではないか
- 情報活用能力をどう身に付けさせていくか
- ICTとの関わり方をどうすればいいか

→ 今後の生活に必要な面と使用に伴う課題の面、利便性の面とリスクの面等、双方で揺れる考え方

↓

ICT 機器との上手な関わり方を、園と家庭が協力しながら見つけていくことが求められる

園務での活用

園と家庭を無理なく繋ぐ

○体調確認や連絡事項、緊急連絡の際にメールを使用している。

○保護者へのアンケートや希望調査をWebフォームで行っている。保護者と園、双方にとっての負担軽減に繋がっている。

家庭の状況に応じて園と繋ぐ

○Web会議システムでの保護者向け講演会の配信や個人面談を実施している。各家庭の希望に合わせて、対面とオンラインを選択できるようにし、園での活動に参加しやすい環境を整えている。

○ホームページで園の様子を毎日更新している。保護者の方がより手軽に園生活の様子を知る場となっている。

保育での活用

園での体験を家庭に繋ぐ

５歳児が作った「おいもしんぶん」を実物投影機やスクリーンを使用して、発表した。新聞をコピーしたものをデータ化し、ホームページに掲載した。パスワードを「秘密の暗号」として持ち帰り、保護者も自宅で閲覧できるようにした。

登園できない状況の家庭と園を繋ぐ

長期間登園できない友達のためにWeb会議システムを使用してオンラインでの誕生会を実施した。歌を歌ったり、絵本の読み聞かせをしたり、数人ずつやりとりをしたりした。

休園期間中の園と家庭を繋ぐ

学級閉鎖期間中に、Web会議システムを使用してクラスごとに30分程度のおはなし会を実施した。絵本や物語を読み聞かせしたり、歌を歌ったり、みんなでできるゲーム（探し物ゲーム、シルエットクイズ等）をしたりした。

幼稚園教育要領解説には、幼児の直接的な体験との関連を教師は常に念頭に置き、情報機器を使用する目的や必要性を自覚しながら活用していくことが必要と示されている。遊びを通した指導、環境を通した教育など、幼児教育とその意義を改めて意識する機会として捉えながら、幼児にとって豊かな生活体験として位置付けられるよう、ICTの活用を考えていきたい。

埼玉大学教育学部附属幼稚園　〒330-0061　埼玉県さいたま市浦和区常盤 8-13-1
電話：048-833-6288　FAX：048-831-2010　Eメール：kinder@gr.saitama-u.ac.jp

幼児の生活と情報活動
～幼児の遊びを豊かにするICT活用の試み～

近年、教育現場においてもGIGAスクール構想などを始めとするICT活用が推進されている。また家庭生活においてもICTは日常的に使用され、幼児自身もICTに触れている現状がある。そこで本園では、直接体験が重要である幼児教育においても、ICT活用の在り方を検討する必要があると考え、一昨年度より研究に取り組み始め、直接体験との関連を考慮しながら、遊びや生活を豊かにするためのICTを活用した保育実践を試み、分析してきた。その結果、１年次には、遊びや生活を豊かにするには、心をつなぐ教師の存在や子ども同士、教師と子どもの関係性、また土台に直接体験があることが大切であるとわかった。そこで、２年次はICTを活用する中での教師のかかわり方を重点に探りながら、発達的視点をもって分析することにした。さらに、その実践の中で、ICTを活用したことで、子どもが何を経験したのかといった観点から整理した。その結果、３つの視点①事実をみる／知る②事実の中にある未知なるもの（不確かさ）をみる／知る③未知なるものをみる／知る　を見出した。

分析の視点

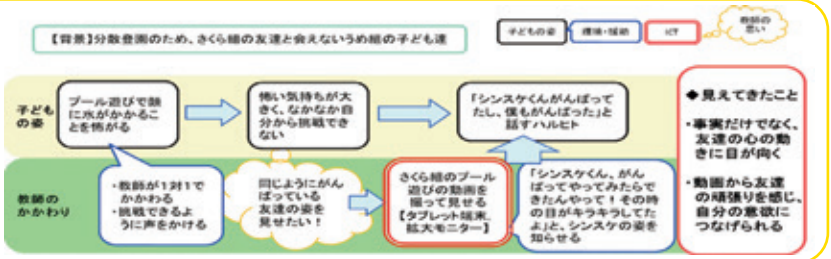
①事実をみる/知る
- 科学的事実
  - 物そのもの
  - 動き
  - 時間的変化
- "本物"
  - 憧れとなるような見本
  - それらしくしたいと思えるモデル
- 人
  - 友達（その存在→その人の心の動き、その人となり）
  - 自分（経験の想起→俯瞰、客観視）

②事実の中にある未知なるもの（不確かさ）をみる/知る
- 事実だが、イメージが膨らむ

③未知なるものをみる/知る
- 実態のない未知のもの
- 実態があり、経験し得る身近なもの

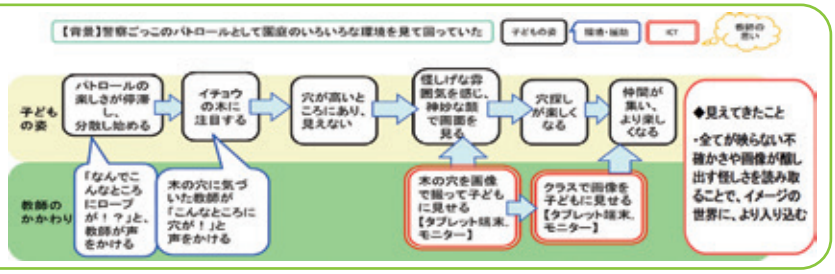
①事実をみる／知る

５歳児事例
「友達の心の動きをみる」



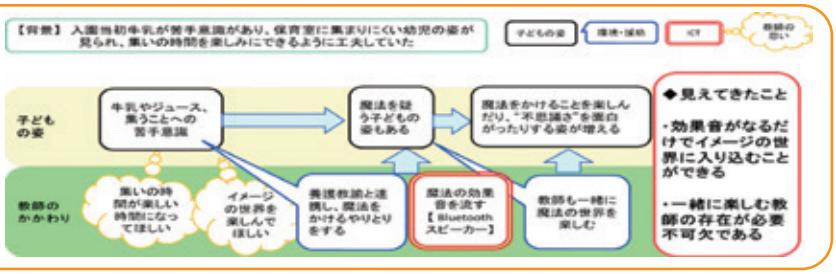
②事実の中にある未知なるもの（不確かさ）をみる／知る

４歳児事例
「怪しさから
イメージが膨らむ」



③未知なるものをみる／知る

３歳児事例
「おいしくな～れ！」



ICT活用の良さ

- ●時間や場所を超えてつながることができる
- ●子どもの思いに沿って、即座に対応できる　⇒ただし、子どもの実態･子どもへの願い･ねらいが大事
- ●発達段階に応じて活用することで、興味をもつきっかけになったり、より深く物事を知ろうとしたりする
- ●もの・こと・人の見方・考え方が変わったり、イメージが広がったり、イメージの世界に入り込んだりする

教師のかかわりのポイント

- ●幼児の興味・関心を捉え、それに沿って活用の在り方を探る
- ●活用したことで、遊びや生活がどのように変化したのかを丁寧に見取る
- ●保育に取り入れる際、即座に取り入れられるように、教材研究をする
- ●「おもしろそう」「やってみよう！」の気持ちをもつ

京都教育大学附属幼稚園　〒612-0071　京都府京都市伏見区桃山井伊掃部東町 16
電話：075-601-0307　FAX：075-611-3452　Eメール：yochien@kyokyo-u.ac.jp

イメージの世界を楽しむことから生まれる言語活動

４歳児学級において、幼児のイメージが豊かになることを願い、「ケロ太」というカエルのパペットと共にカエルをテーマに過ごした。その１年間の活動を振り返り、イメージの世界を楽しむことによる言語活動の充実、そして幼稚園生活全体の中でどのように取り組んでいけばよいかについて考えた。

ケロ太との１年間（主なものを抜粋）

１学期
・ケロ太との出会い
・カエル人形づくり（壁面製作）
・オタマジャクシの飼育 等

２学期
・運動会での踊り、障害物走
（カエルの世界をテーマに）
・ケロロン王国ごっこ
（カエルの国のイメージで）
・ケロ太からの手紙 等

３学期
・表現会（カエルの絵本を題材に）
・冬ごもりハウスごっこ
（絵本からイメージを広げて）等

ケロ太に親しみをもつようになった幼児は、「今日は雨だからケロ太もきっと喜んでるね！」「カエルの鳴き声が聞こえる！きっとケロ太が遊びに来たんだよ！」といったように、言葉を交わしながら次第にケロ太のことをイメージする楽しさを感じるようになっていった。２学期以降はケロ太やカエルのイメージを友達と共有しながら遊ぶ姿が多く見られるようになった。

言語活動の広がり

２学期（10月）ケロロン王国ごっこ

幼児はケロ太から「ケロロン王国という国の王子で、ケロロン王国では城に住んでいるという話を聞いた。すると、A児は大型構成遊具で遊んでいる場をケロロン王国に見立てて遊ぶことを思いついた。一緒に遊んでいた幼児もその遊びのイメージにのって遊び始めた。「（ハスの葉を城の周りに散りばめて）外は池ってことね！だからハスの葉っぱに乗って歩くの」「カエルだから泳いでも行けるよ！私は泳いで行くね」と友達に自分のイメージを伝えながら遊ぶことで、次第に一緒に遊ぶ仲間とイメージが共有されていった。そして、それを聞いた他の幼児から「ケロ太は王子様だから家来がいるんだよ。だから、もっとお城を広くしない？」と新たなアイディアが生まれ、それを伝えながら遊んでいた。

【考察】ケロ太に親しみをもち、生活の中で自分なりに想像したイメージを言葉で表現する幼児が次第に増えていくことで、イメージが豊かになり、そのイメージを共有するようになっていった。そして、共有されたイメージから新たな発想が生まれ、それを教師や友達と伝え合う楽しさを感じていた。イメージの世界を楽しむことで、伝えたいという思いが広がっていった。この姿を**言語活動の広がり**と捉えた。

言語活動の深まり

２学期（12月）ケロ太からの手紙

ケロ太から「冬眠するからみんなとはしばらく会えなくなるケロ。何かあったらここに手紙を出して欲しいケロ」という手紙とポストが届いた。幼児は凄い勢いでケロ太に手紙を書き始め、思い思いの文や絵を描いて自分の思いをケロ太に伝えようとしていた。３学期になっても、家で書いてきたり、裏に返信欄を設けたりして、延べ200通余りの手紙を送った。

３月になり、冬眠から目を覚ましたケロ太から再び手紙が届いた。最初の手紙は読めないケロロン王国の文字で書かれていたが、今度の手紙はひらがなで書かれており、沢山手紙を送ってくれたことへの感謝の気持ちが綴られていた。幼児は再びケロ太に沢山の返事の手紙を書いていた。

【考察】これまでの積み重ねでケロ太に対して親しみをもっていたことと、手紙という伝えることに焦点化されたツールを使ったことにより、相手意識が高まり、ケロ太に思いを伝えることに没頭していった。イメージの世界を楽しむことで、より確かな相手意識をもって思いを伝えようとするようになった。この姿を**言語活動の深まり**と捉えた。

１年を通してイメージの世界を楽しむ中で、幼児の「伝えたい！」という思いが大きくなっていったことで、思いを伝え合う楽しさを感じてもっと伝えようとしたり、より確かな相手意識をもって伝えようとしたりする、**言語活動の広がりと深まり**が見られた。言語活動の広がりと深まりが生まれるには、**幼児の「伝えたい！」という思いを引きだす**ことが大切であり、それが言語活動の充実につながっていく。また、幼稚園生活全体の中での言語活動の充実を図る際、一つのテーマについて幼児が共通のイメージをもつことができるようにすることが一つの手立てとして考えられる。

金沢大学人間社会学域学校教育学類附属幼稚園　〒921-8105　石川県金沢市平和町 1-1-15
電話：076-226-2171　FAX：076-226-2172　Eメール：kinder@center.ed.kanazawa-u.ac.jp

言語活動の充実に向けた取組
～コミュニケーションスキル活動を通して～

幼稚園教育要領「言葉」の領域では、「経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う」と目標が掲げられており、思考力や伝達力の育成といった言語活動の充実が意識されている。自分の思いを適切に相手に伝えるためのスキルを学び、互いの思いを伝え合い、相手の気持ちに気付き、よりよい人間関係を築いていくように本園で取り組んでいるコミュニケーションスキル活動から、言語活動の充実を考えた。

コミュニケーションスキル活動の取組から言語活動の充実を考える

コミュニケーションスキル活動のねらい

対人関係能力を身に付けるためのスキルを学び、日常生活の中で生かすことにより、よりよい人間関係を築くとともに、自他ともに大切にする心を養う。

コミュニケーションスキルの習得で期待する姿

○自分の思いを伝える　○人の思いが分かる　○人とのつながりを大切にしようとする　○自尊感情が育まれる

幼稚園 ⟷ 家庭

幼稚園での実践：年間指導計画及び指導内容

時期	4月	6月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
3歳児			あいさつ① おはよう 【紙芝居】		ありがとう 【紙芝居】		仲間の入り方① 【親子ゲーム】	道具の借り方① 【親子ゲーム】
4歳児	友達の名前を呼ぼう	あいさつ② いろいろなあいさつ 【紙芝居】		仲間の入り方② 【ゲーム】			上手な謝り方 【絵本】	上手な話の聴き方①
5歳児		上手な話の聴き方②	あたたかい言葉のかけ方① (やさしい言葉をかける)	あたたかい言葉のかけ方② (よいところをほめる)	道具の借り方②	やさしい頼み方	あたたかい言葉のかけ方③ (友達の気持ちに気付いたときの言葉)	※5年生との合同学習「いっしょにつくってあそぼう」(90分)

教師の援助と子どもの変容

活動の中でスキルのポイントにそってほめることで、日常生活の中でもポイントを意識して積極的にスキルを用い、あいさつをしたり、言葉を掛けたりして、親しみをもち、人とかかわろうとする姿が見られるようになってきた。

親子で学ぶコミュニケーションスキル

ねらいの達成に向け、保護者の協力を得て、活動を進めている。(5歳児と3歳児の一部)この時期の子どもの発達から、子どもだけでの相互評価は難しく、定着や般化、維持を図るために、そして、幼稚園でも家庭でも一貫してスキルを強化するためにも、保護者の協力が必要であると考える。また、保護者も活動に参加しながら、ほめるスキルを学び、子どもと一緒にスキルを確認することができ、日常生活への般化をより進めるねらいもある。保護者には、幼稚園で実施したスキル活動とそのスキルのポイントを伝え、家庭で子どもが用いたスキルをカードで報告してもらう。保護者自身が、活動の大切や必要性、スキル定着のために家庭での実践の大切さなどを再確認することが期待できる。

保護者の感想から(一部抜粋)

- 子ども達が一生懸命に活動している姿を見て、うれしかったです。
- スキル後、いつもよりも大きな声であいさつができていました。ほめる大切さを再確認し、勉強になりました。

考察

コミュニケーションスキル活動の実践
↓
日常生活の中でスキルを使う姿
↓ 教師や保護者が意識してほめる・認める
スキルを使って自分の思いを伝える姿
↓
言語活動の充実

各年齢においてコミュニケーションスキル活動を系統的に実践し、活動後に日常生活（園・家庭）の中で、教師や保護者が、子どもが学んだスキルを使っている姿を意識して認めたりほめたりすることを大切にしている。そのことで、子どもが、学んだスキルを使って、適切に自分の思いを言葉で伝える姿が見られるようになってきた。このことは、思考力や伝達力といった言語活動の充実にもつながっていると考える。

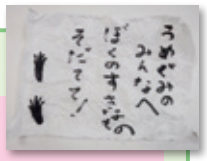
宮崎大学教育学部附属幼稚園　〒880-0031　宮崎県宮崎市船塚1丁目1番地
電話：0985-24-6707　FAX：0985-22-4997　Eメール：fuyou@cc.miyazaki-u.ac.jp

どのような環境やかかわりが探究する姿を引き出すのかを探る

幼児が対象と向き合う中で、主体的に対象とかかわり、対象とのかかわりが深まっていく過程を探究ととらえ、実践から、どのような環境やかかわりが子ども達の探究する姿を引き出すのかを探る。

目指す探究の姿
①見いだした目的をもち、②今までの経験を活かしながら、③友達と一緒に試行錯誤して遊ぶ

実践1　5歳児　4月の終わり～『謎の人物からの手紙と苗』



品種名のみ伝える謎の人物（かっぱ）の演出
- 夏野菜について知っていることを駆使して考える ②
- 葉っぱを触ったり、比べたりして、苗と継続して、積極的に関わる ①

仲間として考えや気付きを整理
自分の考えに自信をもち、友達の考えや思いに気付き、自分の考えと結び付けたり、深めたりする ③

何気ない自然の中から変化をみとり、かっぱの存在を膨らませ、自ら気付き、疑問をもち、友達同士で、想像したり、関連付けたりして、考え合って追求していく ①②③

実践2　5歳児　6月『皆が納得いくようにタマネギを分けよう』

タマネギがたくさん採れた！分け合いたい！ ①

大小の紙をブルーシートに貼っておく
大きさの違いに気付き、分け方を悩み、工夫する ①②

考えを共感・整理
安心して思いを出し、友達の意見を聞き、葛藤したり、折り合いをつけたりしながら話し合いに参加する ②③

譲り合って分け合う

実践3　5歳児　5月～『縄で遊ぼう～面白い遊びを考えて～』

グリップのない縄家庭を巻き込む
- 繰り返し遊ぶ中で、縄の特徴を感じ取り、遊びに活かそうとする ②
- 園でも家庭でも、自分で考えた遊びを繰り返しやり、少しずつ変化させ楽しむ ①

縄を使って逆上がりがしたい！ ①

動きの言語化 一緒に頑張る友達の存在
- 自分や友達の動きや体の状態がわかり、課題に気付いたり、新たなものを生み出し表現したりする ①②③
- 諦めず最後までやり遂げる ③

実践4　5歳児　1月『大きい凧を作りたい』

凧作りコーナーあえて作り方は提示しない
- 経験・材料を駆使し自分なりに工夫して作る ②
- 「大きな凧が作りたい」新たに目的をもつ ①

仲間として一緒にとばす
- 大きいので必然的に協力する ③
- 凧の持ち方や手放し方、風の向き、走り方を試行錯誤する ③
- 「もっとよく飛ぶように」という願いをもつ ①

こだわり 工夫を認める 言語化
目的に向かって、今までの経験を活かしながら自分なりのこだわりをもって、友達と試行錯誤する ①②③

まとめ　今回の事例では・・・

①「見出した目的をもつ」姿を引き出す環境・関わりのキーワード

「しかけ・状況作り」「じっくりと取り組める場・時間の保障」「こだわり・工夫を認める」「変化を見逃さない」「家庭を巻き込む活動」

②「今までの経験を活かす」姿を引き出す環境・関わりのキーワード

「対象との出会い方」「経験・状況をつなぐ」「言語化」「多様な遊び方・使い方ができる道具」

③「友達と一緒に試行錯誤する」姿を引き出す環境・関わりのキーワード

「思いをつなぐ」「共感・整理・関連付け」「認め・励まし」「仲間として共に」「一緒に頑張る友達の存在」

キーワードにある「じっくり取り組める場と時間の保障」について、感覚的に見たり触れたり、やってみたりすることを繰り返す中で、「こうしてみたら面白いかも」「どうなるだろう」等と目的が生まれていくことが多かった。探究する姿を捉えるうえで、感覚的に面白いと思ったことをじっくり・継続して遊ぶことと、目的的に試行錯誤しながら遊んでいくことの2つの姿を目指すことで、双方を行ったり来たりしながら、経験が積み重なったり、経験と経験が結び付いたりして、学びが深まっていくことが実践から明らかになった。

三重大学教育学部附属幼稚園　〒514-0062　三重県津市観音寺町 523
電話：059-227-1711　FAX：059-227-6723　Eメール：sugisawa@fuzoku.edu.mie-u.ac.jp

「やってみたい」のその先へ

本園では、幼児が主体的に「やってみたい」と始めた遊びが、どのように展開していくのか、遊びがつながり深まっていく時に、どこに変わり目があるのかを、環境の構成に視点をおいて探っている。「やってみたい」と始めた遊びがその先へつながることを支えることは、子どもの探究心を育成することに繋がっているのではないかと考える。

4歳児:「くるくる剣づくりからその先へ」

4～5月　6～7月　9～10月　11～12月

くるくる剣づくり

・自分でできるようになったことを喜び、繰り返し試す

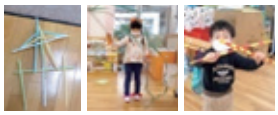
・友達と同じようなイメージをもって、なりきって遊べるように（リズム室など、友達の動きが見える程度の広い場）

・自分で選べるように（B5サイズの色画用紙、様々な硬さの広告紙）
・飾りを付けられるように（色画用紙を丸や三角の形に切ったものや様々な色のビニールテープや布テープ）
・発想の幅を広げ、好きなイメージで遊べるように（数色の紙テープ、麻ひもなど）

戦いごっこ

・なりきる楽しさを感じる
・戦い方を工夫する

くるくる剣づくりの工夫



・素材の特徴に気付き、活かして遊ぶ
・友達のよさを認め、模倣したり工夫したりする

・イメージを共有して遊べるように（戸外など大きな声を出して叫べる場）
・思いや考えを伝えたり受け入れたりしながら劇遊びを進められるように（劇でやりたいことやなりたい役を出し合う場）

劇遊び

・身に付けた技術を活かす
・いろいろな友達とイメージを共有する楽しさを感じる

・友達の作品を見ることができるように（作品を置く机、集まりで紹介する場）

学びの読み取り

子どもの学びを読み取る際には、「発達を読み取る手がかり一覧」（平成30年度本園作成）を活用

環境の構成

環境を構成する際には、「学びを支えるポイント」（令和2年度本園作成）を活用

※これまでの研究の成果で得られた「発達を読み取る手がかり一覧」や「学びを支えるポイント」を積極的に保育に活用して研究を進めた。

子どもたちが「やってみたい」と始めた遊びがその先につながったと思われた実践における環境の構成や保育者の援助を振り返っていく中で、次のようなことが分かった。

（1）子どもがそれぞれに「やってみたい」ことを心ゆくまで取り組める環境を保障する。
（2）子どもの「やってみたい」を支えその先に進むためには、子どもの思いや願い、育ちの姿を的確にとらえ、指導計画に位置付けて、環境の構成や再構成・援助に活かす。
（3）「やってみたい」のその先は、1つの遊びが継続していくだけでなく、違う遊びへのつながりもとらえる。

熊本大学教育学部附属幼稚園　〒860-0846　熊本県熊本市中央区城東町 5-9
電話：096-352-3483　FAX：096-356-2433　Eメール：yochien@gpo.kumamoto-u.ac.jp

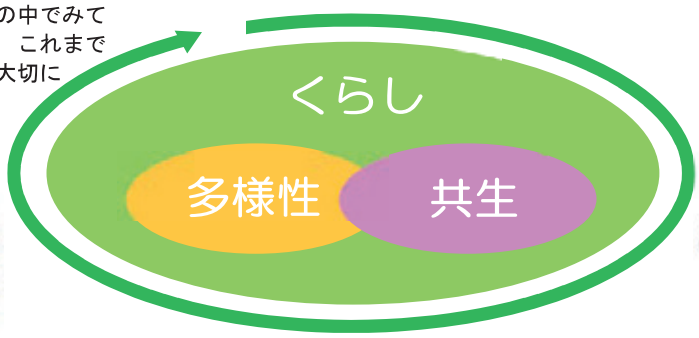
幼児にとっての多様性をどう見るか
（4歳児の事例を通して）

本園では、“いま”を充実して生きることと同時に“これから”を見据えることが、未来の世界を生きていく子どもたちにとって大切と考え、社会でも取り組みの広がるSDGsを保育の中で意識し、SDGsの視点から保育を問い直しています。そこから見えてきたことが「多様性と共生に満ちた保育こそがこれからを生きぬく子どもたちの力を育む」ということです。

私たちの多様性とは

日々の「くらし」（遊び・生活），すなわち他者と「共生」する枠組みの中で保育を実践するとき，私たち（幼児も教師も）は，どのような違いに出会い，感じ，どう捉えていくのかを考えていくこと

「くらし」の中でみていくことは，これまで幼児教育で大切にしてきたことと同じ



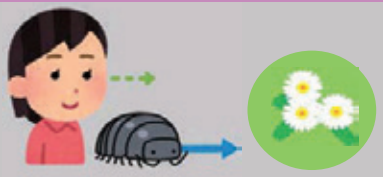
事例から多様性を読み取りました

実践事例１　「このおはながすきだから」

「ダンゴムシがクレサンセマムの花びらが好き」ということを教師に教えてもらったＡ児は，ダンゴムシのお家にたくさん花びらを入れて帰った。

翌朝，Ａ児はその花びらがなくなったのを自分の目で確かめるようにじっと見て，やがて花壇にあるこの花の下で「このおはながすきだから」とダンゴムシを探したり，週末には飼育ケースにたくさん花びらを入れたりするようになった。

気持ちの寄せ方・眼差しが少しずつ変化



愛着をもって物事に気持ちを寄せ，その中で自分と他者の違いを実感していくことが，多様性を捉えることにつながる

実践事例２　「チョウさん、しんじゃう」

Ｂ児がチョウを捕まえ喜んでいたが，Ｃ児が「チョウさん，しんじゃう」と怒って逃がしてしまった。教師はＣ児のチョウをいたわる思いを受け止めながら，涙が止まらないＢ児の思いも伝えた。Ｃ児も次第に落ち着いて話を聞き、教師はどちらも責められるべきではないと２人を誘い保育室に入ったが，やがてＣ児も泣き出してしまった。

気持ちを受け止めてもらい少しずつ変化

幼児を肯定的に受け止めながら，根底にある「同じ思いの上にある違い」に触れていくことが，多様性を受け入れることにつながる

幼児にとって多様性とは

『違い』に「触れる」「知ることにつながる」「受け止め合う」経験を重ねていくこと

滋賀大学教育学部附属幼稚園　〒520-0817　滋賀県大津市昭和町 10-3
電話：077-527-5257　FAX：077-527-5262　Eメール：shiga-fuyou@edu.shiga-u.ac.jp

多様性を生かした保育を考える

本園では「豊かな自然や友達とかかわりながら、一人一人がその子らしさを発揮し、共に育ち合う生活を通して心豊かにたくましく生きる力をはぐくむ」ことを教育の目標としている。本園の子どもたちが将来、「あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働（幼稚園教育要領前文）」するために、私たち保育者に求められるものは何であるか多様性の視点から保育実践を振り返ることによって、子どもの他者とのかかわりを捉え直し、多様性を生かした保育について検討した。

事例１「カービィに決まり」５歳児９月上旬

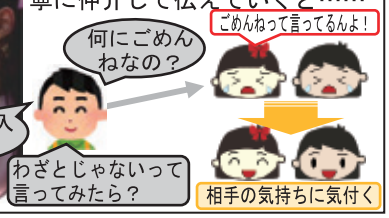
グループ名を決める活動で，強く主張する子ども，それに苛立つ子ども，関心のない子どもなど様々だったけれど……

面白いグループ名を提案して笑い合う → 楽しさを共感

自分と異なる意見を受け入れる → 全員納得して決定！

事例２「ごめんね！ごめんね！ごめんねって言ってるんよ」３歳児１月上旬

泣きながら友達に話しかける子どもに対して，保育者が思いを受け止めて互いの気持ちを丁寧に仲介して伝えていくと……



多様性を生かした保育とは？

あらゆる他者を価値のある存在として尊重し，多様な人々と協働する

将来

多様性の理解へ

- 自由な発言や行動ができる
- 自分らしくいられる
- その子らしさを感じる

- 自分の気持ちを表し，相手の気持ちに気付く
- 共感や共有をする

一人一人の考えや行動が許容される環境や雰囲気づくり

他者との共感・共有体験の保障

保育者が、子どもたち一人一人の考えや行動が許容される環境や雰囲気をつくり、様々な他者とかかわりをもつ中で共感・共有体験ができるような機会を保障しながら保育を展開することが、子どもたちが多様性を理解することに繋がると考える。

広島大学附属幼稚園　〒739-0045　広島県東広島市鏡山北 333-2
電話：082-424-6190　FAX：082-424-5528　Eメール：yochien@hiroshima-u.ac.jp

令和5年度　全国国立大学附属幼稚園研究テーマ一覧

令和5年2月現在

	園　名	令和5年度研究テーマ	公開研究会等開催日
1	北海道教育大学 附属旭川幼稚園	質の高い保育の探求 ～幼児期にふさわしい遊びと生活のデザイン～	9.9(土)
2	北海道教育大学 附属函館幼稚園	「幼児期からの学びの基盤づくり」 ー質の高い学びへの円滑な接続のためにー(仮)	未定
3	弘前大学教育学部 附属幼稚園	遊びこむ子どもを育む保育 (3年次)	11.2(木) 附属四校園合同開催 (幼稚園単独開催はなし)
4	岩手大学教育学部 附属幼稚園	豊かな遊びを育む ～対話を通して～	未定
5	宮城教育大学 附属幼稚園	持続可能な社会の担い手を育む環境とその援助 ～子どもが夢中になって遊ぶ教育課程～	10.24(火)
6	秋田大学教育文化学部 附属幼稚園	「遊びの中で育つかかわり」 ～かかわりの育ちと教育課程～	第1回　6.28(水) 第2回　11.15(水) 園舎改修工事中のためどちらもオンライン
7	山形大学 附属幼稚園	遊びこむ子どもを育む(6年次)	6.8(木)
8	福島大学 附属幼稚園	日々の保育を考える ー「やってみたい」のその先にー	11.10(金)・11(土)
9	茨城大学教育学部 附属幼稚園	つながる保育 ー探求する子どもの姿を目指してー	2.9(金)
10	宇都宮大学共同教育学部 附属幼稚園	たっぷり遊ぶを支える ～ものとのかかわりを通して～	6.17(土)
11	群馬大学共同教育学部 附属幼稚園	夢中になって遊ぶ幼児を育む保育 ー遊びの魅力を膨らませる環境の再構成ー(2年次)	11.3(金)
12	埼玉大学教育学部 附属幼稚園	幼児教育への問いに実践から応えるⅠ ー「遊び」とは何でしょうかー	6.14(水) 11.8(水) 1.31(水)
13	千葉大学教育学部 附属幼稚園	対話からうまれる保育と評価	公開研究会　7.8(土)・2.17(土) 保育を語る会　6.9(金)・10.18(水)
14	東京学芸大学 附属幼稚園小金井園舎	幼児教育を語る・伝える保育者	6.23(金)
	東京学芸大学 附属幼稚園竹早園舎	未定	未定
15	お茶の水女子大学 附属幼稚園	「つくる」がうまれる暮らし	2.9(金)
16	山梨大学教育学部 附属幼稚園	しなやかに伸びていく子どもを育む保育(2年次)	配信　12.8(金) 公開保育のみ 6.21(水)・11.29(水)・2.21(水)
17	新潟大学 附属幼稚園	自ら動き出す子どもの育成(3年次)	5.10(水) 10.14(土) 12.4(月)
18	富山大学教育学部 附属幼稚園	豊かな感性と表現する力を育む ーもの、人、こととの関わりの中でー ～ 教師の援助を探る ～	6.15(木)
19	金沢大学人間社会学域 学校教育学類附属幼稚園	幼児期における社会情動的スキルの発達(4年次)	6.3(土)
20	福井大学教育学部 附属幼稚園	つながりが育む学びの深まり ー好きが広がり、世界をひらくー	附属幼稚園・義務教育学校教育研究集会　6.16(金) 幼児教育研究集会　11.3(金)
21	信州大学教育学部 附属幼稚園	子どもの思いに寄り添う保育者のあり方	11.11(土)
22	上越教育大学 附属幼稚園	つながる保育　つなぐ保育	9.28(木)
23	静岡大学教育学部 附属幼稚園	あそびについて語り合おう(2年次)	5.31(水) 10.26(木) 12.1(金)
24	愛知教育大学 附属幼稚園	未定	11.9(木)
25	三重大学教育学部 附属幼稚園	ひととの対話が深まる保育環境(2年次) ー遊び込む姿を目指してー	11.11(土)
26	滋賀大学教育学部 附属幼稚園	"いま"を生きる × "これから"を生きぬく力を育む保育 ～多様なステキと向かい合う子供たち～(2年次)	11.8(水)
27	京都教育大学 附属幼稚園	未定	12.9(土)
28	大阪教育大学 附属幼稚園	自分のよさや可能性に気付くための 保育の在り方を探る(2年次)	12.9(土)
29	兵庫教育大学 附属幼稚園	未定	12.2(土)
30	神戸大学 附属幼稚園	遊びの中の学びを見取る ～資質・能力の発揮、伸長を支えるために～	1.27(土)
31	奈良教育大学 附属幼稚園	共に創る保育 ー持続可能な社会の担い手を育む教育課程の開発ー	11.11(土)
32	奈良女子大学 附属幼稚園	ともに世界に意味を創り出す教育をデザインする ー誰もが学び続けるシステムの構築ー	5歳児公開保育　6.23(金) 3・4歳児公開保育　11.17(金)
33	鳥取大学 附属幼稚園	未定	10.21(土)
34	島根大学教育学部 附属幼稚園	遊び込む子どもを育てる	11.16(木)
35	岡山大学教育学部 附属幼稚園	共にくらしを創る ー幼児の「自己決定」を支える環境づくりー(2年次)	11.3(金)
36	広島大学 附属幼稚園	ESDで考える子どもの主体的活動(仮)	10.26(木)(予定)
37	広島大学 附属三原幼稚園	高次に競争的でグローバル化された多様性社会に適応するために求められる、3つの次元(躍動する感性・レジリエンス・横断的な知識)の基礎となる資質・能力を育成する幼小中一貫教育カリキュラムの研究開発(仮)	12.2(土)
38	山口大学教育学部 附属幼稚園	未定	11.16(木)
39	鳴門教育大学 附属幼稚園	遊誘財から保育者の専門性を問う ー子どもと創る保育のためにー	10.21(土)
40	香川大学教育学部 附属幼稚園	未定	なし
	香川大学教育学部 附属幼稚園高松園舎	環境の在り方について考える	2.1(木) 幼小交流活動　2.2(金)
41	愛媛大学教育学部 附属幼稚園	個を生かした協働的な学びを求めて	2.2(金)
42	高知大学教育学部 附属幼稚園	心・体が育つ保育をめざして ー幼児教育において育みたい資質・能力に着目してー	1.27(土)
43	福岡教育大学 附属幼稚園	未定	11.11(土)
44	佐賀大学教育学部 附属幼稚園	保育の質を高める環境を探る(仮)	2.12(月)
45	長崎大学教育学部 附属幼稚園	「したい　知りたい　やってみよう」を 育む環境構成と教師の援助(3年次)	1.27(土)
46	熊本大学教育学部 附属幼稚園	「やってみたい」のその先へ ～学びを支えるポイント(援助)の検証　1年次～	1.27(土)
47	大分大学教育学部 附属幼稚園	遊びや生活の中で深く遊ぶ子どもを育む(3年次)	10.28(土)
48	宮崎大学教育学部 附属幼稚園	ポジティブな行動支援による保育の在り方	2.2(金)
49	鹿児島大学教育学部 附属幼稚園	未定	11.17(金)

発　行　全国国立大学附属学校連盟幼稚園部会

事務局
千葉大学教育学部附属幼稚園
〒263－8522　千葉県千葉市稲毛区弥生町1－33
TEL：043－251－9001　FAX：043－251－9001
E-mail：kinder@chiba-u.jp